

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	府中保育園
期間	令和6年 9月～12月

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

2歳児：ごっこ遊び

＜テーマの設定理由＞

子どもたち同士の遊びの中で、おままごとや見立て遊びを通してやり取りが発展している姿が見られ特定の子どもたちだけではなく、全員でやりとりを楽しみながら遊べるようにしたいと思い、テーマの設定をした。

2. 活動スケジュール

- ・全員で日々使用している玩具を使っておままごとで遊び、クラスでどんな姿が見られるか話し合う。
- ・子どもたちの姿を分類し、遊びの発展に必要な玩具を用意していく。
- ・玩具を充実させて、分類したグループに毎に遊び、姿の変化を見ていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・おままごと玩具（食べ物、お弁当箱、フライパン、コンロ、電子レンジ）、お医者さんセット（白衣、聴診器、注射器、体温計）、お人形、抱っこ紐、マット、段ボールハウス

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

- ・日々の保育でのおままごととは、グループに分かれて遊んでいる為、全員でおままごとで遊ぶ時間を設ける。クラスで話しあい、日々の遊びの姿、全員で遊ぶ様子を見て①遊びが上手な子②遊びに興味がある子③遊びに興味がなく、飽きてしまう子の3グループに分けた。
- ・①、②グループの子どもたちだけの空間でおままごと遊びを行うが、やりとりが発展せず、個々に遊びに集中していた。その為、
- ・遊びを通しての発展を見込み、玩具や環境の充実を図る。
- ・充実した環境で全員で遊べるように働きかける。 を行っていた。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

○クラスの部屋で子ども達全員でおままごと遊びを行う。
友だちと一緒にやりとりをして楽しめる子、遊びに興味がなく飽きている子の姿が見られる。

○子どもたちの姿から3グループに分け、クラスの部屋とは違う空間でおままごと遊びを行う。

○馴染のある部屋で、よりおままごとの空間を充実させる玩具を用意する。（ミルク、段ボールサークルの追加）
新しい玩具に興味津々で個々で遊びこんでいる。一方保育者が仲立ちする事でいつも関わりの少ない友だちとのやりとりで遊びが発展出来る場面もあった。



○新たに段ボールハウス、電子レンジを追加して遊ぶ。
保育者の話を事前に聞く事で新しい玩具にも順番で遊んだり、友だちに譲るやりとりが出来るようになって来た。また、保育者の動きを真似て友だちに遊びを誘いかけたりする姿も見られた。



○更にお医者さんごっこを追加して遊ぶ。
お医者さんごっこでは今まで遊んでいたおままごとと組み合わせて遊んだり、役に成りきったやりとりもよく行っていた。



○最後は全員で遊んだ。遊び方に慣れてきた子は子どもたち同士で発展させる事が出来ていた。一方遊び方が分からない子や慣れていない子は色々な物に興味を示し、遊びが続かなかった。

5. クラスで話し合い、良かったこと、次につなげたいこと、課題

- ・環境を整えていく事、保育者が遊びに合わせた玩具を用意する事で遊び方や友だちとの関わりの違いが見られた。
- ・保育者が環境構成や玩具を充実させることで遊びこむ事が出来、環境になれてくる事で友だちとの関わり、やり取りが増えてくる
- ・遊びに入りたい時に自ら「いれて」を言えるようになったり、「どうぞ」と譲る事が出来るようになった。
- ・言葉の少ない子や、遊び方が分からない子も、友だちの姿や、保育者の促しによって少しずつ出来るようになっていくことが増えてきている。
- ・以前は遊びに興味が無かった子や、やりとりが難しい子も保育者が誘い掛けたり、一緒に関わって遊ぶ事で友だちと遊ぶこと、やりとりをするきっかけを作れるようにしていきたい。

6. 次の活動

＜活動内容、新たに準備した素材・設定等＞

- ・活動内容：集団遊び（あぶくたった、ぞうさんとくものす）
- ・準備した素材：新しい集団遊びのイラスト
- ・設定環境：室内、園庭で全員参加の集団遊びを行う。

＜活動中の子どもの姿等＞

・研修発表の際に職員から頂いた助言の中で、友だちとの関わりの増える集団遊びを取り入れていく事にした。

アドバイス内容：保育者も全力で遊びに参加する姿を見せる関わり方、関わりの増える集団遊びを取り入れる、遊び方が難しい子の手本となり、誘い掛ける関わり方

＜あぶくたった＞

おばけ役の「とんとんとん」、逃げる側の「何の音？」⇒「〇〇の音」というやりとりを楽しんでいた。「〇〇の音」は子どもたちが自分の好きなアンパンマンやプリンセスに変えて発言する事が出来ていた。戸外に出た時には子どもたちが自らやりたいと誘い掛け、子ども達だけでオバケ役も出来るようになった。控えめな子もお話が上手な子の真似をして遊びを通したやりとりを楽しんでいる。



＜ぞうさんとくものす＞

初めて行う集団遊びも取り入れた。友だちの名前を呼んで輪を大きくしていく遊びで、数回行くと直ぐにルールを覚えて楽しそうに参加していた。友だちの名前を呼ぶ子も呼ばれる子も嬉しそうな表情で掛け合いをしている。



7. 振り返り

＜本活動によって得た保育者の気づき＞

- ・今回のごっこ遊びから集団遊びの取り組みを通して友だちと遊ぶ姿が多く見られるようになった。
- ・ごっこ遊びでの、役になりきった言葉のやり取りや友だちとの関わりを感じるだけでなく、集団遊びのような大勢で遊ぶ事を通して遊びの楽しさを感じてもらう事が出来た。
- ・子どもたちが遊びの充実からやり取りの楽しさや関わりの楽しさを感じられるようになるにはきっかけとなる声掛けや関わり、環境設定を丁寧に行っていく事が大切なポイントとなる事を改めて感じた。
- ・映像や画像で記録として残す事で子どもたちの変化や成長を細かく感じ、読み取る事が出来た為、引き続き継続していきたいと思う。